

# ★R7 えひめっこピカイチ大賞★ 情報活用部門

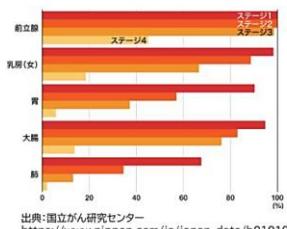
## 「あつたらいいなこんな世界～大阪・関西万博の年に描く未来の姿～」

### 「手遅れです」をなくしたい！



がんの発見が遅いと生存率が低下！

主ながんのステージ別10年生存率



1回の入院で約20万円もかかる！

主ながん



からだの中が正確に見えたらいいのに…



多発性骨髄腫で何年間も腫病生活。  
病院でよく検査しているから大丈夫と思っていたが、まさかの大腸がんステージ4が発見。  
手術できず、わずか半年後に他界。

### あつたらいいな、こんなアイテム

#### 早期発見＆早期治療のために 病気チェック虫メガネ

対象年齢 何歳でも  
対象性別 誰でも  
対象人数 最大6人までのデータを記憶  
価格 ¥30,000（税込）  
貰える場所 病院・薬局



使用頻度 週1回～  
使い方 電源を入れて、チェックしたい体の部分に近づけるだけ。  
異常があれば判定窓が「赤色」、正常なら「青色」に光る。  
アプリ連動 「赤色」の場合、考えられる病名や近くのおすすめ病院が表示される

※イラストはGeminiで作成したもの

### 叶うといいな、こんな世界

病気にかかるはずだったお金を「推し活」に使える



### 【特選作品】

1人1台端末を用いて自主的に作成した作品について、優秀と認められたものです。おめでとうございます！



# ★R7 えひめっこピカイチ大賞★

情報活用部門

## 「あつたらしいなこんな世界～大阪・関西万博の年に描く未来の姿～」

### 食品ロスの現状

あつたらしいなこんな世界  
～大阪・関西万博の年に描く未来の姿～

世界では食料生産量の3分の1に当たる約13億トンの食料が毎年廃棄されています。日本でも1年間に約612万トンもの食料が捨てられており、これは東京ドーム5杯分とほぼ同じ量です。

日本での食品ロスの原因は、大きく分けて2つあります。一つは、スーパー・マーケットやコンビニなど小売店での売れ残りや返品、飲食店での食べ残し、売り物にならない規格外品といった事業系食品ロス（328万トン）。もう一つは、家での料理の作り過ぎによる食べ残しや、買ったのに使わずに捨ててしまうこと、料理を作る時の皮のむき過ぎなど、家庭系食品ロス（284万トン）です。

日本人1人あたり  
毎日お茶碗1杯分  
捨てている。



[https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/2010/spe1\\_01.html](https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/2010/spe1_01.html)より引用

### こんなの欲しい！

AI自動調理器！



オーブンレンジ  
温める 焼く



冷蔵庫  
保存する  
冷凍する



AI自動調理器

AI

賞味期限を確認し  
作る料理・手順を考える



自動調理器  
料理する



フード  
プロセッサー  
切る  
まぜる

### AIが食材を管理し食品ロスを出さない未来

持続可能な社会の実現へ

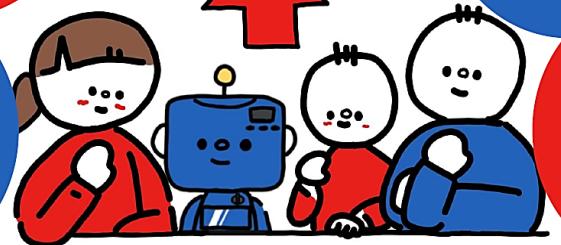
SDGs

CO<sub>2</sub>の排出量を減らす  
・廃棄される食材を減らす事によって、処分するときにはCO<sub>2</sub>の削減につながる。

少子高齢化との繋がり  
・持病を抱えている高齢者へ病院などと連携し、料理を提供することができる。  
・子供の成長段階に合わせたメニューを提供することができる。

健康で快適な暮らしへ  
・栄養バランスの取れた食事が食べられる。  
・体調に合わせて量や、食材を変えてくれる。

食品を無駄にしない未来  
・余った食材は廃棄されることなく、新しい料理に生まれ変わる。  
・「賞味期限を切らして廃棄する」ということがなくなる。



### 【特選作品】

1人1台端末を用いて自主的に作成した作品について、優秀と認められたものです。おめでとうございます！



# ★R7 えひめっこピカイチ大賞★ 情報活用部門

「あつたらしいなこんな世界～大阪・関西万博の年に描く未来の姿～」

## 自然災害に強い社会に

### 予測できない自然災害

いつ起きてもおかしくない地震や洪水などの自然災害。ぼくが住んでいる西予市は、西日本豪雨のとき想定を大きく超える大雨により、川が氾濫しました。また、気象庁は、地震の予測は難しいと発表しています。自然災害は、いつどこで発生するか分かりにくいことが課題だと思いました。

気象庁HPより

“確度の高い地震の  
予測は難しい”



### 未来の姿

### AIとスマホを活用して災害から命を守れる社会に

自然災害がもし起きたとき、今のスマートフォンやアプリにある機能（マップやカメラ等）を利用して避難所までスムーズに誘導できるようにしたいです。

僕も、今後どんな自然災害があるか分からぬ状況ですが、こういうサービスで少しでも多くの命を救いたいと思いました。

西予市には、市と愛媛大学が共同開発した防災のアプリがありますが、ダウンロード数は500以上とまだ広まっていません。AIを活用するもっと便利になるアイデアを考えました。

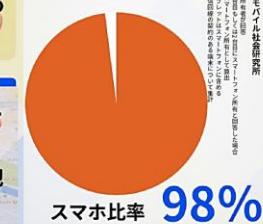
### 解決するアイデア AIとスマートフォンを 活用した防災システム

約9割も使われているスマートフォンと近年進化しているAIを活用し、災害発生から避難所までの誘導をサポートするシステムです。

安全な道を選び、  
音と映像で  
避難経路を案内する  
ことができる。

津波がどこまで來て  
いるか等を  
スマートフォンの地  
図で確認できる。

2025年携帯電話所有者におけるスマート  
フォン比率



### 【特選作品】

1人1台端末を用いて自主的に作成した作品について、優秀と認められたものです。おめでとうございます！